

2021年11月25日

今冬の雪はどうか？ウェザーニュース、降雪傾向(12～3月)を発表
ラニーニャ現象の影響で、降雪量は東～西日本の日本海側で多くなる可能性大
～降雪のピークは広範囲で1月後半、南岸低気圧の影響で平野部も積雪のおそれあり～

株式会社ウェザーニュース(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開 千仁)は、今冬の「降雪傾向」を発表しました。今冬(12～3月)降雪量は東～西日本の日本海側中心に“**平年並か多い**”予想です。一方、北日本と東～西日本の太平洋側では“**平年並**”となる見通しです。ラニーニャ現象の影響で偏西風が日本付近で南に蛇行し、西日本を中心に寒気の流れ込みやすい時期があります。雪のピークは広範囲で1月後半の予想で、強い寒気が南下したタイミングでは山陰を中心に大雪となり、濃尾平野や京阪神、瀬戸内でも積雪のおそれがあります。また、1月後半からは南岸低気圧の影響で関東甲信の平野部でも積雪のおそれがあります。交通機関に影響が出る可能性もあるため、随時最新の情報をご確認ください。

昨冬は前半に強い寒気の流れ込んだ影響で記録的な大雪となったところもあり、降雪量は西日本の日本海側でかなり多くなりました。今年は2シーズン連続で冬にラニーニャ現象が発生した状態となるため、昨冬と同様に西日本の日本海側を中心に降雪量が多くなる可能性があります。最新の見解お天気アプリ「ウェザーニュース」またはウェザーニュースウェブサイト「長期予報」からご確認ください。

<ポイント>

- (1) 降雪量:
東～西日本の日本海側で“**平年並か多い**”、北日本と東～西日本の太平洋側で“**平年並**”。
- (2) ピーク:
広範囲で1月後半。強い寒気や南岸低気圧の影響で太平洋側の平野部でも積雪のおそれあり。
- (3) 降雪量を左右する要因:
ラニーニャ現象の影響で偏西風が南に蛇行し、西日本を中心に寒気の流れ込みやすい。

本プレスリリースの素材ダウンロード	最新の予報はこちらから
ウェブ版プレスリリース「降雪傾向」 https://jp.weathernews.com/news/38166/	ウェザーニュースウェブサイト「長期予報」 https://weathernews.jp/s/opinion/

◆ 今冬の降雪傾向(12～3月)**<降雪量:東～西日本の日本海側で“平年並か多い”>**

今冬の降雪量は、北陸・近畿北部・山陰・九州の東シナ海側で“**平年並か多い**”、その他のエリアは“**平年並**”の予想です。予想のポイントとなるのは、ラニーニャ現象とそれに伴う偏西風の蛇行です。



今冬は、ラニーニャ現象の影響で偏西風が日本付近で南に蛇行し、西日本を中心に寒気の流れ込みやすい時期がある見込みです。このため、東～西日本の日本海側中心に降雪量は平年並か多くなる予想です。一方、北日本は冬型の気圧配置が強まる時期があるものの、全般に寒気の流れ込みは平年より弱い見込みです。ただ、低気圧の影響でまとまった雪が降る日もあるとみられ、降雪量は平年並の予想です。東日本の太平洋側は1月後半から南岸低気圧の影響を受けやすくなり、平野部でも積雪



するおそれがあります。また今冬は西回りで強い寒気が流れ込む時期があり、西日本の太平洋側でも平野部で積雪する日がある見込みです。東～西日本の太平洋側の降雪量は平年並の予想です。

昨冬は前半に強い寒気が流れ込んだ影響で記録的な大雪となったところもあり、降雪量は西日本の日本海側でかなり多くなりました。今年は2シーズン連続で冬にラニーニャ現象が発生した状態となるため、昨冬と同様に西日本の日本海側を中心に降雪量が多くなる可能性があります。

<雪のピーク: 広範囲で1月後半、太平洋側の平野部でも積雪のおそれ>

雪のピークは広範囲で1月後半の予想です。強い寒気が南下したタイミングでは山陰を中心に大雪となり、濃尾平野や京阪神、瀬戸内でも積雪のおそれがあります。また、1月後半からは南岸低気圧の影響で関東甲信の平野部でも積雪のおそれがあります。交通機関に大きな影響が出る可能性もあるため、随時最新の情報をご確認ください。

◆ エリアごとの降雪傾向

エリア	本格化時期	ピーク時期	降雪量	降雪傾向
北日本	12月上旬	1月後半	平年並	<p>北海道では10月17日に稚内・旭川・網走、11月14日に帯広、16日に室蘭、19日に札幌、21日に函館、22日に釧路で初雪が観測されました。稚内・旭川・網走で平年より早く、その他の地点は平年より遅い観測でした。東北では11月23日に青森、24日に盛岡で初雪が観測され、いずれも平年より遅い観測となりました。</p> <p><日本海側> 今冬の気温は平年並か高い予想です。冬型の気圧配置が強まる時期があるものの、全般に寒気の流れ込みは平年より弱い見込みです。ただ、発達した低気圧の通過でまとまった雪の降る日や暴風雪となる日もある見込みです。</p> <p><太平洋側・オホーツク海側> 今冬の気温は平年並か高い予想です。1月後半を中心に低気圧の影響を受けやすく、雪の降る日が多くなる予想です。また、発達した低気圧の通過でまとまった雪の降る日や暴風雪になる日もある見込みです。</p>
東日本	12月中旬	1月後半	<p><日本海側> 平年並か多い</p> <p><太平洋側> 平年並</p>	<p><日本海側> 今冬の気温は平年並ですが、変動が大きい予想です。12月中旬から冬型の気圧配置になりやすく、積雪が徐々に増えていく予想です。1月後半は一時的に強い寒気の流れ込み、一気に積雪が増加する日がありそうです。2月後半になると、次第に寒気の流れ込みが弱まり、雪どけが進む見込みですが、一時寒の戻りがありそうです。</p> <p><太平洋側> 今冬の気温は平年並かやや高い見込みですが、変動が大きい予想です。1月下旬～2月は、南岸低気圧の影響を受ける日があり、関東の平野部でも何度か雪の降る日がありそうです。東京都心でも積雪リスクが高まるため、注意が必要です。南岸低気圧は、そのコースと発達具合が雨が雪かを</p>

				<p>大きく左右するため、雪予報が発表された際は、最新の情報をこまめにご確認ください。</p> <p>2 月後半になると、次第に寒気の流れ込みが弱まり、山間部の雪どけが進む見込みですが、一時寒の戻りがありそうです。</p>
西日本	12 月中旬	1 月後半	<p><日本海側・東シナ海側> 平年並か多い</p> <p><太平洋側> 平年並</p>	<p><日本海側・東シナ海側> 今冬の気温は平年並か低い予想です。12 月中旬から冬型の気圧配置になりやすく、下旬以降は積雪する日が増えてくる予想です。1 月後半は一時的に強い寒気の流れ込み、一気に積雪が増加する日がありそうです。2 月後半になると、次第に寒気の流れ込みが弱まり、春めいてくる見込みですが、一時寒の戻りがありそうです。</p> <p><太平洋側> 今冬の気温は平年並か低い予想です。12 月中旬に初雪となる所が多いでしょう。1 月下旬は一時的に強い寒気の流れ込み、平野部でも積雪のリスクがあります。2 月後半になると、次第に大陸からの寒気の流れ込みが弱まり、春めいてくる見込みですが、一時寒の戻りがありそうです。</p>

◆ 今冬の降雪傾向について

当社では、日々、長期気象予測サービスの実用化に向けて取り組みをおこなっていますが、現在の気象予測の技術水準では、予測精度の誤差が大きくなる場合があります。今回の降雪傾向発表にあたり、複数の気象機関や長期予報の有識者からの見通しを元に、総合的に見解を出しています。本リリースにおける情報につきましては、発表日(11 月 25 日)における最新の見解になります。

※平年:1991~2020 年の過去 30 年間の平均